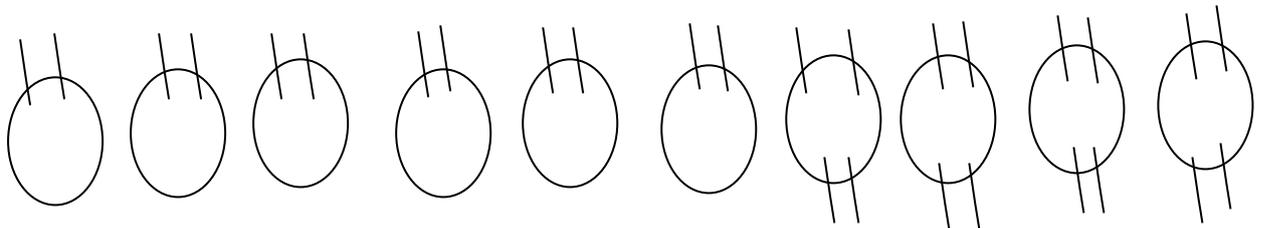


鶴亀算

中国の数学書、孫子算経(そんしさんきょう)にある、「雉兔同籠」(キジとウサギの数を求める問題)が始まりとされている。雉兔同籠は現在中国では鶏兔同籠とよばれている。それが、江戸時代、おめでたい動物のツルとカメに置き換えられて、この名前になった。

- (1) 鶴と亀があわせて10匹いる。その足の数は28本。さて、鶴と亀は、それぞれ何匹いるだろうか？



かめ	1(4)	2(8)	3(12)	4(16)			
つる	9(18)	8(16)	7(14)	6(12)			
足	22	24	26	28	30		

$$10 \times 2 = 20 \quad \text{もし全部つるなら足 20 本}$$

$$28 - 20 = 8 \quad \text{足りない足の本数 8 本}$$

$$8 \div 2 = 4 \quad \text{あと 2 本ずつ配って亀にしていける数 4 匹分}$$

$$10 - 4 = 6$$

亀 4 匹 つる 6 羽

(2) 月夜の晩に鶴と亀が集まってきました。頭数は28個、足数は88本でした。さて、鶴と亀は、それぞれ何匹いるだろうか？

$$28 \times 2 = 56$$

$$88 - 56 = 32$$

$$32 \div 2 = 16$$

$$28 - 16 = 12$$

亀 16匹 つる 12羽